



SAFE COMMUNITY TSURU CITY



親と子の安全対策委員会



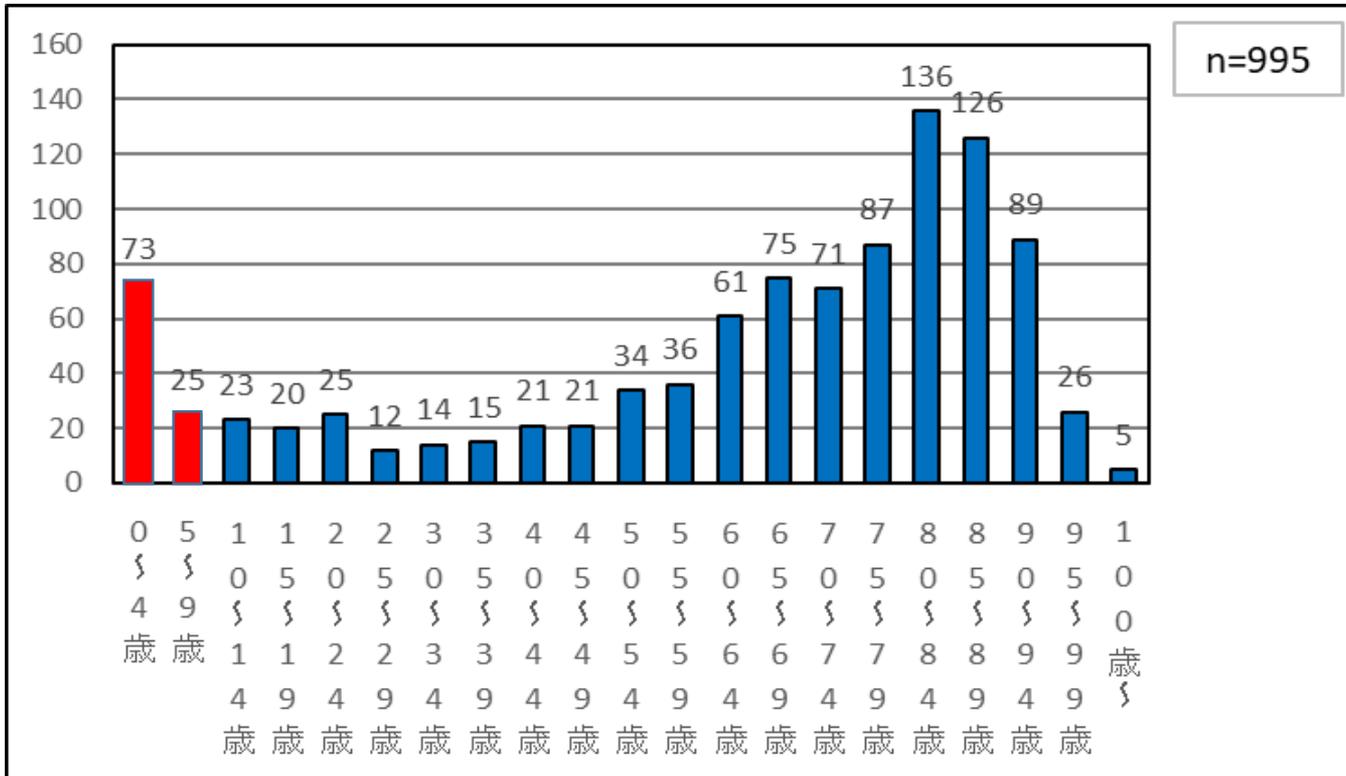
発表日 2025年8月8日(金)
発表者 親と子の安全対策委員会
委員長 辻 康子

設置の背景

- ① 0～9歳の子ども的一般負傷による救急搬送の件数が多い。
- ② 家庭内でのケガや事故防止の意識が低いと思われる家庭が多い。
- ③ 子育ての負担感や責任が親に集中しており、子育てがストレスにつながっている。

背景①：一般負傷による救急搬送の状況

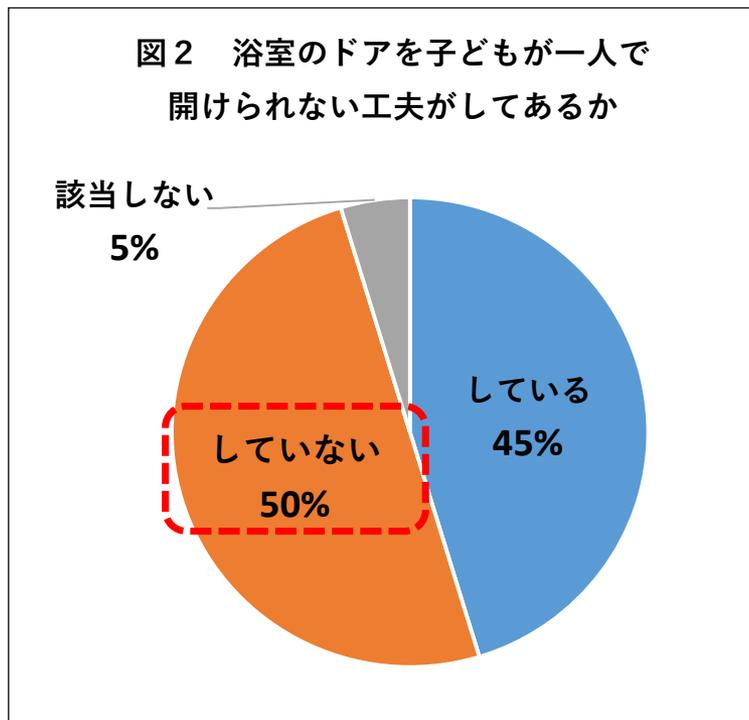
図1 一般負傷による救急搬送の年齢層別件数（2013～2017年合計）



出典：救急搬送データ

■ 子ども（特に0～9歳の年齢層）の一般負傷による救急搬送は、高齢者層に次いで多い。

背景②：ケガや事故防止対策の状況



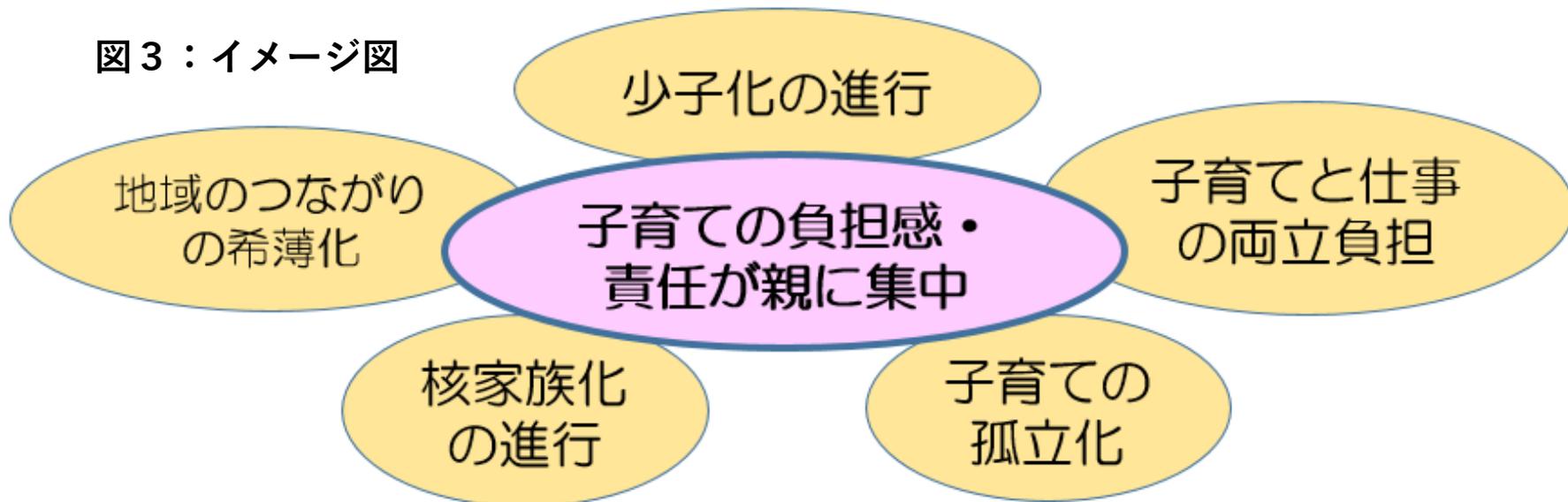
出典：2017
乳幼児健康診査データ（1歳6カ月）



■ 子どものいる家庭内で、ケガや事故防止対策を講じている家庭の割合は約半数にとどまっており、ケガや事故防止に対する意識の低さが伺える。

背景③ - 1 : 都留市の子育て環境の現状

図3：イメージ図



子育ての負担感が親のストレスを招く



子どもの健やかな成長に影響する



子どもの安全対策には親の存在が不可欠

背景③ - 2 : 都留市の子育て環境の現状

問10 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

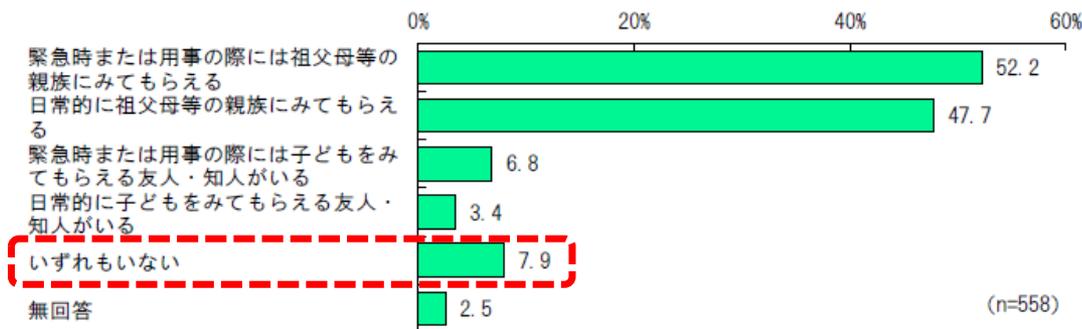
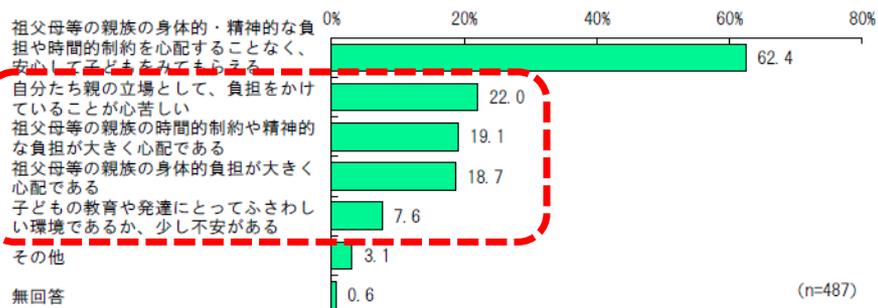


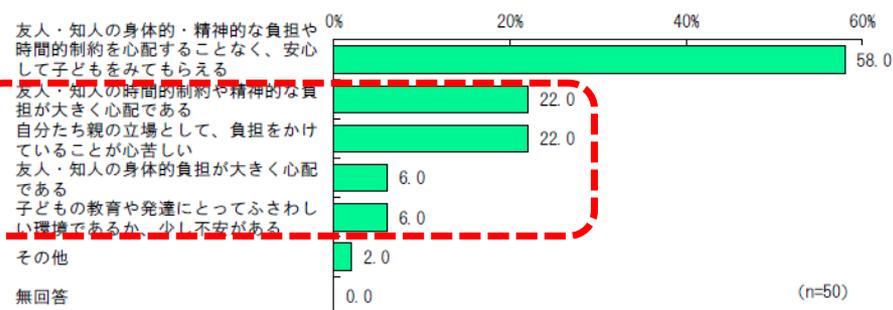
図4 : 子ども・子育てニーズ調査結果

出典：2018年
子ども・子育てニーズ調査

問10-1 問10で「1」または「2」に○をつけた方にうかがいます。祖父母等の親族に宛名のお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



問10-2 問10で「3」または「4」に○をつけた方にうかがいます。友人・知人に宛名のお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



■ 緊急時や用事の際に子どもを預けることができる人がいないと答えた人は少数だが、預けることができる人も実際には「心理的な負担・不安」を抱えている。

対策委員会の構成

| 区分 | 団体・組織名 | |
|---------------|---|------|
| 住民組織 民間団体等 | 保護者代表【委員長】 | |
| | 都留市主任児童委員【副委員長】 | |
| | NPO法人 にじいろのスイミー（放課後児童クラブ） | |
| | 都留文科大学 学生（公募市民）  | |
| 行政機関 | 都留市教頭会 | 宝保育所 |
| | 都留市立病院 | — |
| | 都留市（健康子育て課・学校教育課・生涯学習課） | |

データに基づく問題

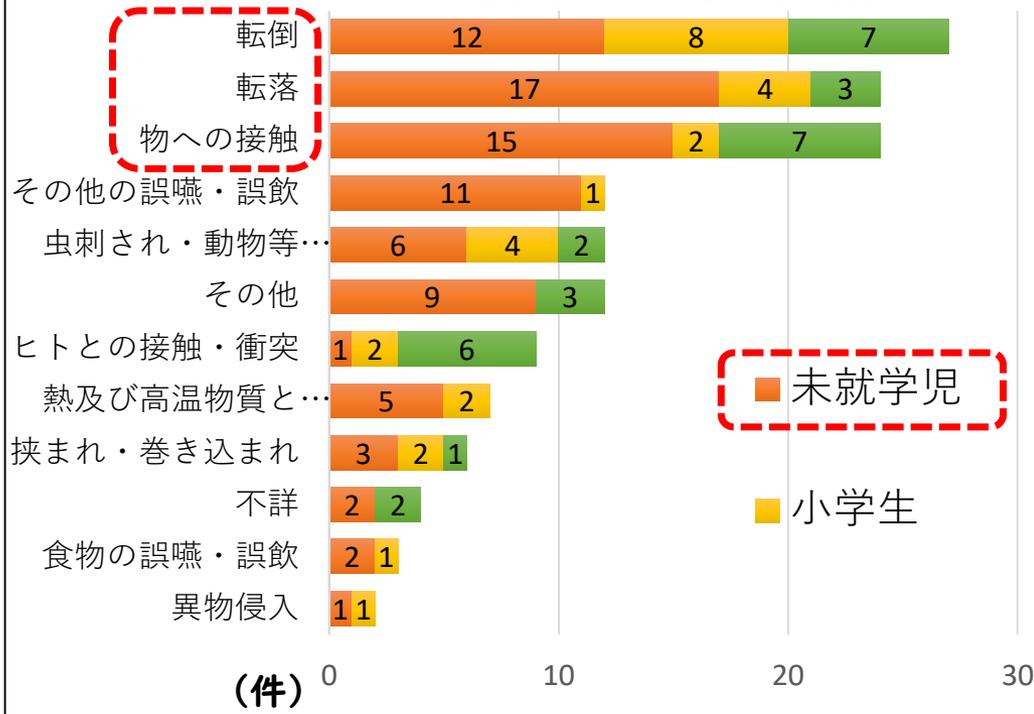
- ① 子どもの救急搬送は未就学児に多く、住宅内でのケガが多い。
(図5・6)
- ② 小中学生の学校内でのケガが多い。
(図7 ~ 10)
- ③ 子育てのしにくさを感じている親の割合が多く、
子育て中の親が相談できる場が少ない。
(図11 ~ 13)
- ④ 子どもへの無意識の虐待が多い。
(図14 ~ 16)



問題の背景(次ページ)

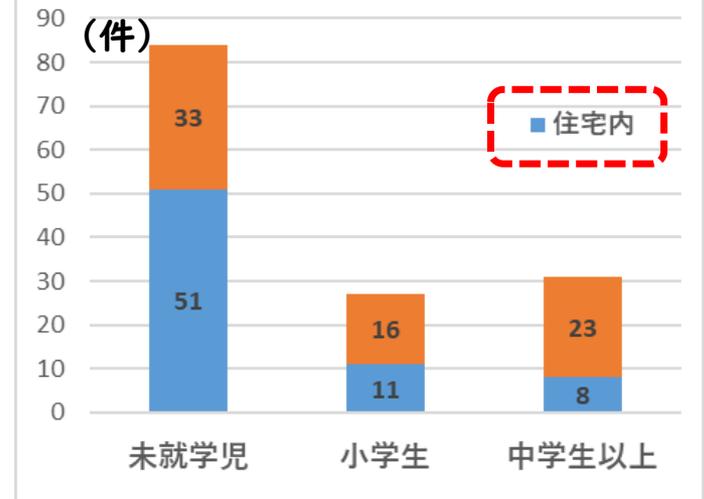
問題①：子どもの家庭内でのケガが多い

図5 子どもの一般負傷による救急搬送件数



出典：2013-2017
一般負傷による救急搬送データ

図6 救急搬送年齢別・場所別件数



■ 一般負傷による子どもの救急搬送は未就学児に多く、住宅内で発生している。
なお、負傷原因は「転落」・「転倒」・「物への接触」が多い。

問題② - 1 : 小学生の学校内のケガが多い

図7 場合別発生件数割合

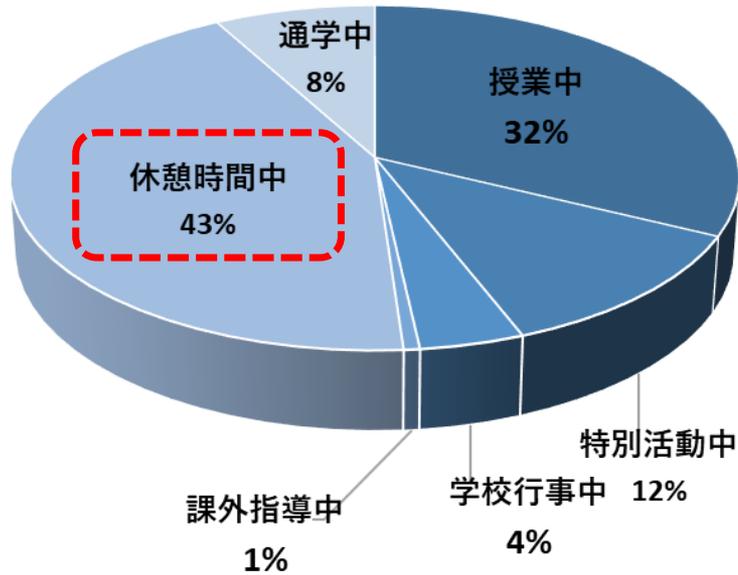
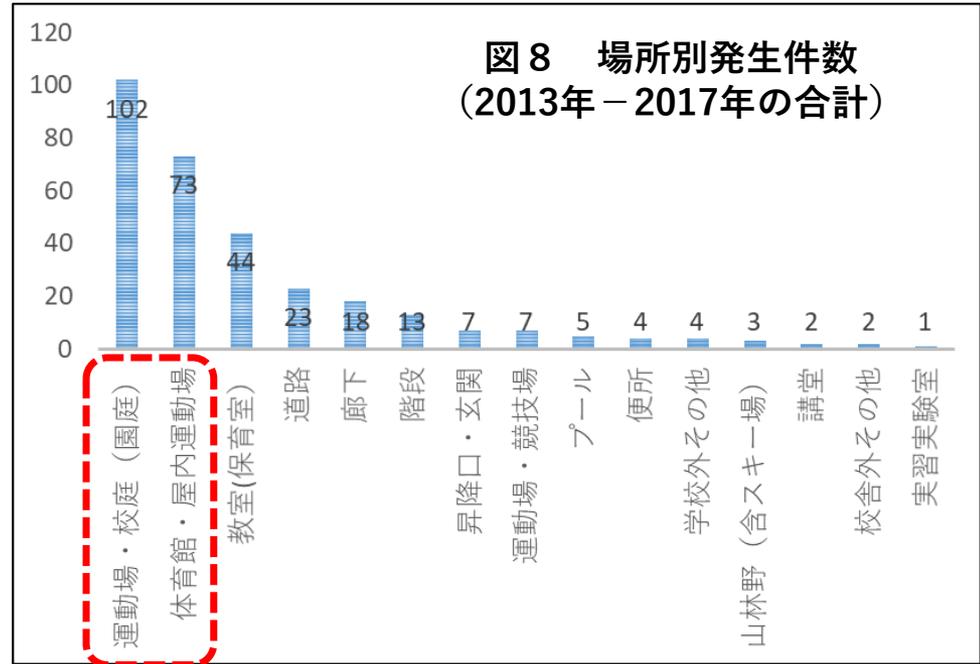


図8 場所別発生件数
(2013年 - 2017年の合計)

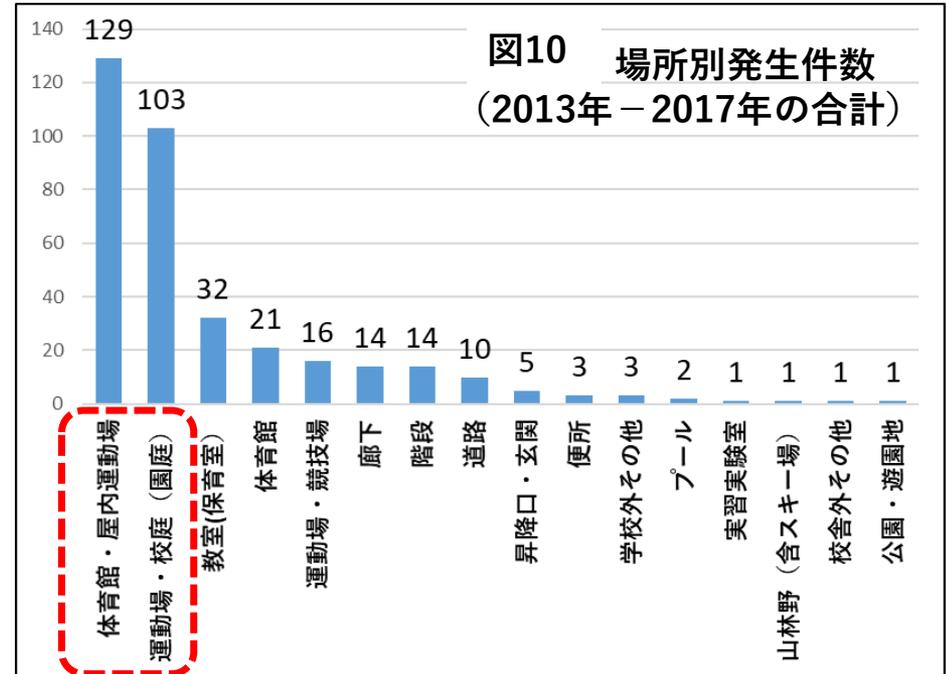
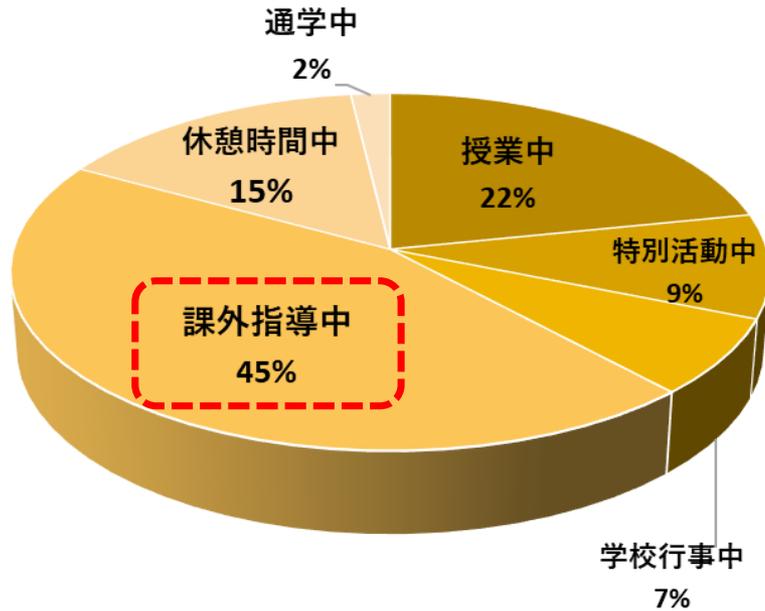


出典：災害共済給付データ

■ 小学生の学校内での大きなケガは、休憩時間中に発生しており、発生場所については、ほとんどが運動場・体育館となっている。

問題② - 2 : 中学生の学校内のケガが多い

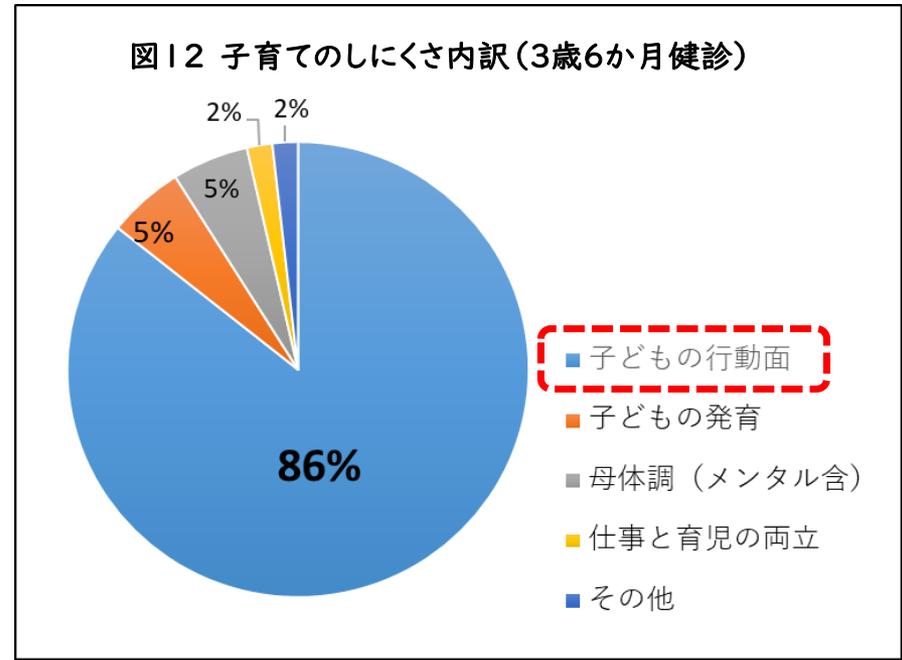
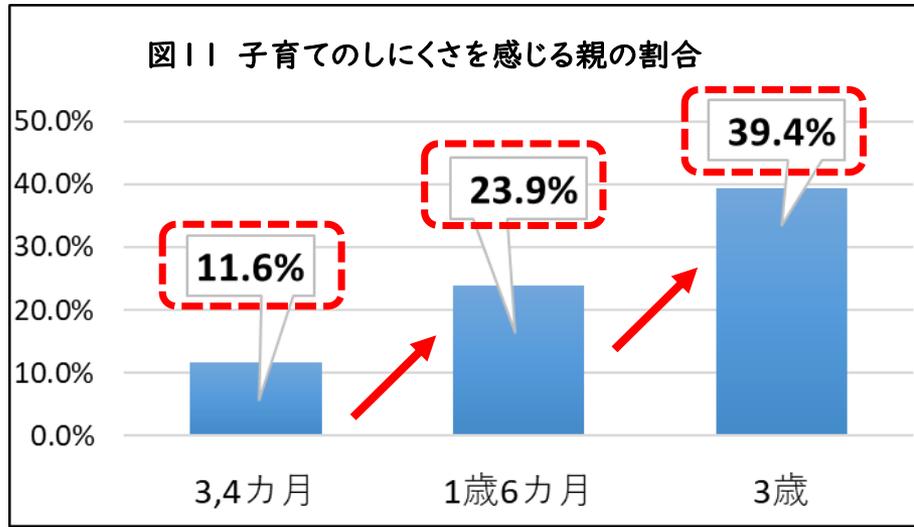
図9 場合別発生件数割合



出典：災害共済給付データ

■ 中学生の学校内での大きなケガは、課外指導中に発生しており、発生場所については、ほとんどが体育館・運動場となっている。

問題③ - 1 : 子育てのしにくさを感じる親が多い

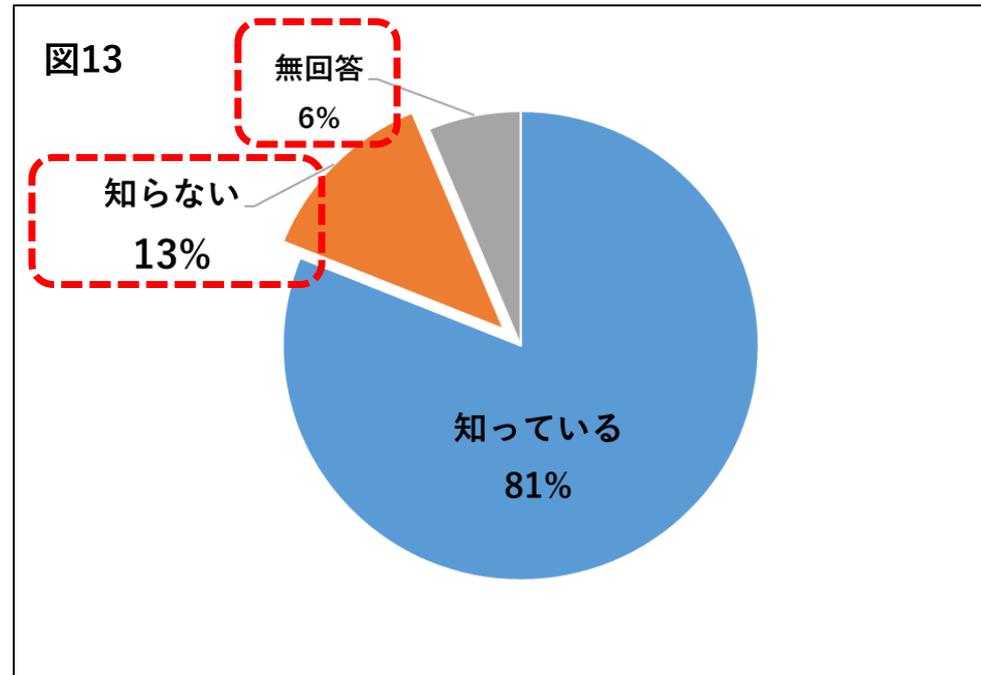


出典：2017
乳幼児健康診査データ

■ 子育てのしにくさを感じる親の割合は、子どもの年齢が上がるにつれて上昇し、その最大の要因については、子どもの行動が親の思うようにならないこと。

子育てのしにくさを 感じる方に対して…

「Q. 育てにくさを感じた時に、
相談先を知っているなど
何らかの解決方法を知っていますか？」

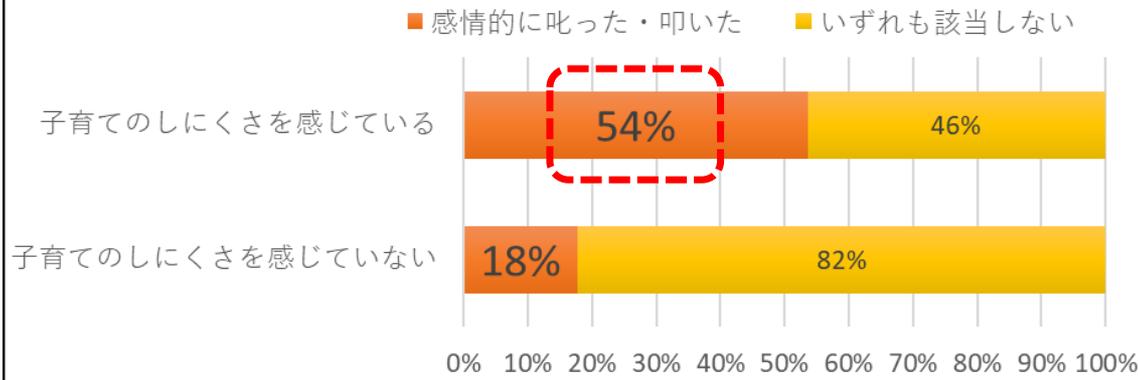


出典：2017
乳幼児健康診査データ

- 子育てのしにくさを感じている親の中で、困った時の解決方法を知っているのは約8割。約2割の方については、困ったことがあっても相談につながらない可能性がある。

問題④ - 1 : 子どもへの虐待が多い

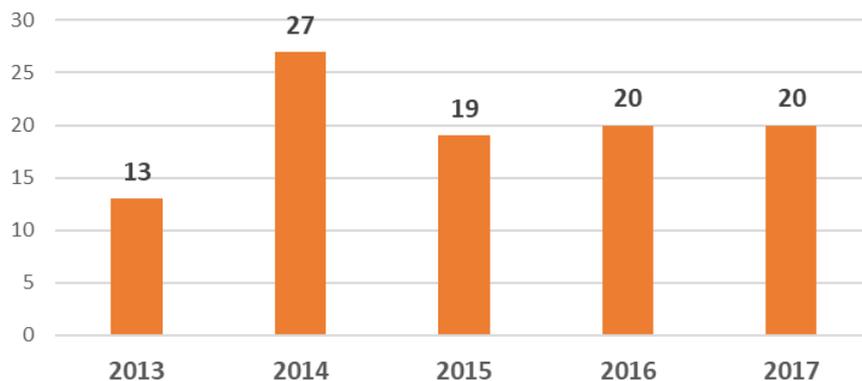
図14 子育てのしにくさの有無と虐待の状況



出典：2017
乳幼児健康診査データ

■ 子育てのしにくさを感じる人のうち、この数か月間に、子どもを感情的に叱ったり、叩いたりしたことがある人の割合は54%（子育てのしにくさを感じない人では18%）
⇒ 子育てにストレスを感じている人ほど、子どもへの虐待リスクは高い。

図15 年度別 児童虐待受理件数
(2013年~2017年)



■ 虐待の通告・相談件数は、近年、年間20人程度で推移している。

出典：市町村虐待調査

問題④ - 2 : 虐待に対する意識が低い

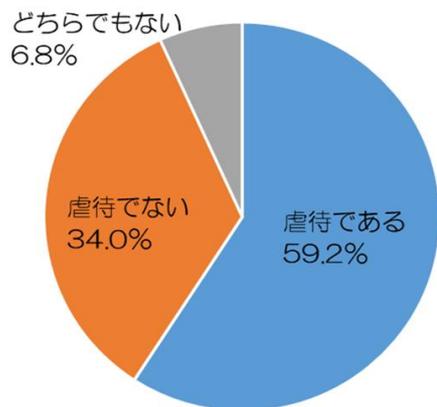
虐待に関する意識調査 【 対策委員会：独自 】

- 2019年の「産業まつり」の際に、委員会独自で虐待に関する意識調査を実施
⇒ 10代～高齢層までの男女：147人に対して、6項目を聞き取り。

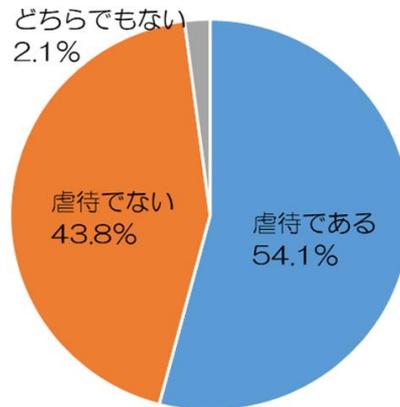


図16 虐待に関する意識調査結果

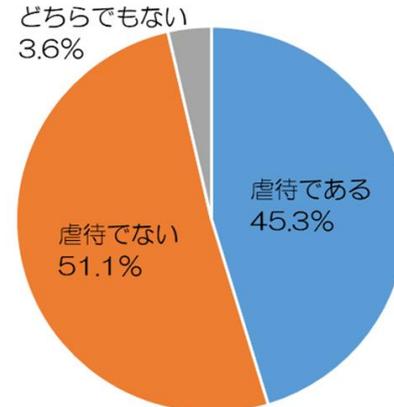
① しつけとして子どもをたたく



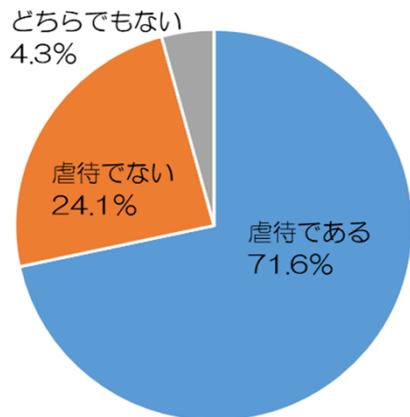
② 子どもの前で夫婦喧嘩をする



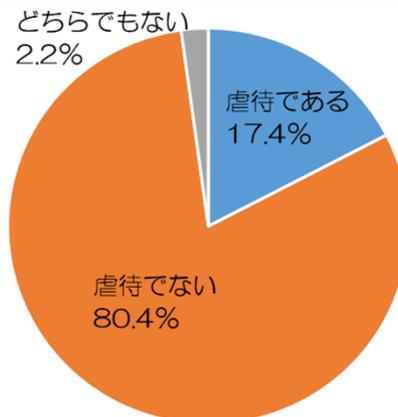
③ 兄弟・姉妹を色々な場面で比較する



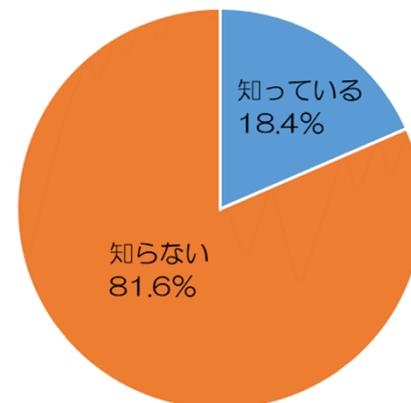
④ 子どもが悪いことをしたので、罰として、話しかけられても無視する



⑤ お風呂上りに下着も付けずに、子どものいる居間に行く



⑥ ☎189を知っていますか？
(児童相談所虐待対応ダイヤル)



■ ①～⑤まで全て虐待に該当するが、その認識がない人が多い結果となった。

問題に対する課題・方向性

問題点

①乳幼児期の家庭内での事故やケガが多い
(図5・6)

②小中学生の学校生活におけるケガが多い
(図7～10)

③子育て中の保護者が相談できる場が少ない
(図11～13)

④子どもへの虐待が多い
(図14～16)

課題(取り組み)

乳幼児期の家庭内でのケガや事故防止対策に係る保護者への啓発と環境整備の促進

学校での過ごし方の分析と環境整備の促進

子育て中の保護者が気軽に相談できる場の創出

虐待に対する正しい知識の周知

目標(目指す姿)

①乳幼児の家庭内での事故やケガの減少

②学校内でのケガの減少

③子育てのしにくさや不安の解消

④児童虐待の減少

課題①に対するレベル別対策

| 課題 | 対策 | | | |
|--|-------|---|---|--|
| | 方向性 | 国・県レベル | 市レベル | 地域レベル |
| 課題① 乳幼児期の家庭内でのケガや事故防止対策に係る保護者への啓発と環境整備の促進 | 啓発支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもを事故から守る！プロジェクト」の実施（消費者庁・こども家庭庁） ・「子どもの事故防止ハンドブック」の配布 ・「やまなし子育てハンドブック」の配布 | <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃん広場の実施（子どもの発達と危険防止についてワンポイント学習） ・7ヶ月児健康相談（危険防止のチラシ、やまなし子育てハンドブックの配布） ・「つるし子育て応援ガイドブック」の配布 | <ul style="list-style-type: none"> ・各家庭での事故防止対策（階段への柵設置等） |
| | 規則・罰則 | <p>プログラム①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の家庭内での事故やけが防止に資する保護者への啓発と環境整備の促進 → 啓発チラシの配布 / 啓発媒体の作成配布 | | |
| | 環境整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・「#8000」こども医療電話相談 ・産前産後ケアセンターでの子育て相談（24時間365日） | <ul style="list-style-type: none"> ・こども家庭センターの設置 ・都留市地域子育て支援センター「はぐっと」の設置 | <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援サークル ・主任児童委員の相談受付 |

課題②に対するレベル別対策

| 課題 | 対策 | | | |
|----------------------------|-------|---|--|--|
| | 方向性 | 国・県レベル | 市レベル | 地域レベル |
| 課題② 学校での過ごし方の分析と環境整備の促進 | 啓発支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・「地域における通学時等の防犯対策ハンドブック」の配布 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設、遊具の定期点検 ・体育や部活動前の準備運動 ・「保健だより」によるけが防止意識の向上 ・保健室来室時の指導 ・「都留リーダーサミット」の開催 | <ul style="list-style-type: none"> ・スクールガードによる登下校時の安全確保 |
| | 規則・罰則 | <p><u>プログラム②</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での過ごし方の分析と児童生徒自身の安全に対する意識の向上 → 保健室来室記録データの分析結果の提供 / ISSとの連携 | | |
| | 環境整備 | | <ul style="list-style-type: none"> ・安全な学校づくりのための「ISS」への取り組み | |

課題③・④に対するレベル別対策

| 課題 | 対策 | | | |
|--------------------------------------|---------------------------|--|---|--|
| | 方向性 | 国・県レベル | 市レベル | 地域レベル |
| 課題③ 子育て中の 保護者が気軽に 相談できる場の創出 | 啓発 支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの虐待防止推進 全国フォーラム ・オレンジリボン運動 ・虐待防止月間(毎年11月) にあわせたポスター/ リーフレットの配布 ・「やまなし子育てハンド ブック」の配布 | <ul style="list-style-type: none"> ・やまなし子育てハンドブックの 配布 ・「189」/親子のための相談 LINEの周知 ・市ホームページへの掲載 | <ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民や関係機関から の通報 |
| | | <p><u>プログラム④</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民に対する虐待に係る正しい知識の周知 → 啓発動画の作成/啓発物品(定規)の作成配布 | | |
| | 課題④ 虐待に対する 正しい知識の周知 | 規則・ 罰則 | <p><u>プログラム③</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の保護者が気軽に相談できる場の周知 → チラシの配布・子育てほっとステーションの設置 市内の各種イベント時にブース出展(SC活動/子育て支援PR) | |
| | 環境 整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所虐待対応 ダイヤル「189(いちはやく)」 ・親子のための相談LINE | <ul style="list-style-type: none"> ・こども家庭センターの設置 ・都留市地域子育て支援 センター「はぐっと」の設置 ・都留市要保護児童対策地域 協議会の設置 | |

環境面への取り組み

【国・県レベル】

やまなし子育て ハンドブック



yamanashi KOSODATE handbook



山梨県

1. 妊娠と出産
 - 妊娠したら
 - 赤ちゃんが生まれたら
2. 子育てをサポートします！
 - 経済的サポート・保護制度等について
 - 仕事と育児を両立するための制度
 - 社会全体で子育て応援
 - 赤ちゃんもママもパパも一緒に成長
3. 子どもの健康や医療
 - 病気や事故から子どもを守る
 - 離乳食から始める食育について
4. 子どもを預ける、施設を利用する
 - 県内の病児保育
 - 教育・保育施設
 - 多様な子育て支援事業
5. 相談と支援
 - ひとり親家庭のために
 - 障害のある子どものために
 - ひとりで悩まないで
 - 育児と介護のダブルケアになったら
6. 子育てに便利な情報一覧



虐待かも
と思ったら
いちはやく
189番へ

189番にかけると
お近くの児童相談所につながります。



こんなときにはすぐお電話ください。



親子のための相談LINE

子育ての悩みには相談LINEがいいかも♪

すぐイラッとしちゃう。子育て向いてないのかな..

子育てでしんどい..もうガマンできないかも。

カモン! 育児にもなるかも、おしゃべりもできるかも!

「親子のための相談LINE」は、子育てや親子関係について悩んだときに、子ども(18歳未満)とその保護者の方などが相談できる窓口です。



匿名可能

匿名(LINE上のアイコンとニックネーム)でも相談ができます。



秘密厳守

相談内容の秘密は守られます。

環境面への取り組み

【市レベル】

■ 「ISS (International Safe School) への取り組み (国際認証)

○ ISS とは・・・

- ・身体／心のけが及びその原因となる事故、いじめ、暴力等を予防することによって、安全で健やかな学校づくりを進める活動。
- ・認証されることは、事故やけがのリスクが100%安全な学校として認められることではなく、安全な学校づくりのための仕組みが確立され、継続的に機能していることが認められるということ。

⇒ モデル校として「谷村第一小学校」・「都留第二中学校」が取り組んでおり、今後、全ての小中学校で展開予定。

■ ISSに取り組むことの成果



(ISS取り組み開始宣言の様子)



【地域レベル】

■ スクールガード



環境面への取り組み

【市レベル】

〇こども家庭センターとは？

母子保健機能と児童福祉機能を統合した一体的な相談体制を整備するため、令和6年4月1日から健康子育て課内に「こども家庭センター」を設置しました。



子育て支援センター(地域子育て支援拠点事業)

地域子育て支援拠点事業とは、乳児又は幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所(子育て支援センター)を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行うことにより、子育ての不安等を緩和し、子どもの健やかな育ちを促進することを目的とする事業です。



本市独自の取り組み

【市レベル】

こどもまんなか応援サポーター宣言



都留市は、こどもたちのために何がもっともよいことを常に考え、こどもたちが健やかに幸せに成長できるような「こどもまんなか」社会を実現するという、「こどもまんなか宣言」の趣旨に賛同し、こどもと子育て世帯を応援する取組をより一層推進することを宣言します。

本市が目指す「子育てを楽しむ『ひと』の創生」、「住み続けたいと選ばれる『まち』の実現」及び「地域で育てる『まち』の創生」に向け、各種施策を重点的に推進し、「子育ての喜びが実感できるまち」の実現に全力を尽くします。

令和5年8月7日 都留市長 堀内 富久



【X (旧Twitter)】
ページ名: 山梨県都留市 (@TsurucityKouhou)
twitter.com/TsurucityKouhou



【Facebook (フェイスブック)】
ページ名: 都留市 (@kouhou.tsuru)
www.facebook.com/kouhou.tsuru/



【Instagram (インスタグラム)】
ページ名: 山梨県都留市 (@tsuru.city)
www.instagram.com/tsuru.city/



【LINE (ライン)】
アカウント名: tsurucity
[友だち追加](#)



母子手帳アプリ 子育てつるし

妊娠・出産・育児に関する記録や情報収集に便利です。是非ご利用ください。



iOS版



Android™版



プログラムの運営状況

- 各種プログラムについて継続して実施する中で、新たな取り組みを検討し、積極的に実施している。**（プログラム②は自走により、必要に応じて連携）**
 ⇒ 啓発媒体／物品の作成・配付、市内各種イベントへのブース出展 等

| 区分 | 進行状況 | | | | |
|--|---------------|-------------|------------------|--------|-----------------|
| | 2021年 (認証) | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年 (事前指導) |
| プログラム① 乳幼児期の家庭内でのケガや事故防止に資する保護者への啓発と環境整備の促進 | チラシ配布 | | | 啓発媒体作成 | 継続 |
| プログラム② 学校での過ごし方の分析と児童生徒自身の安全に対する意識の向上 | | | ISSへの取り組み | 方向性検討 | 連携 |
| プログラム③ 子育て中の保護者が気軽に相談できる場の周知 | | チラシ配布 | ブース出展 (各イベント) | | 継続 |
| プログラム④ 市民に対する虐待に係る正しい知識の周知 | 啓発動画 作成① | 啓発動画 作成② | 啓発物品 作成 | | 継続 |

プログラム①

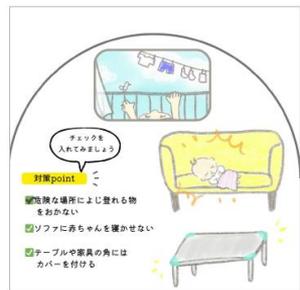
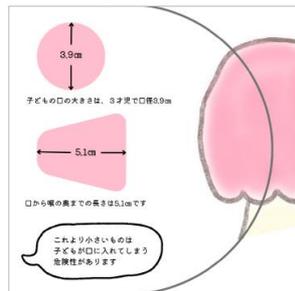
乳幼児期の家庭内でのケガや事故防止に資する保護者への啓発と環境整備の促進

| | | |
|------------------|---|----------------------|
| 課 題 | 乳幼児期は、ケガや事故が家庭内で発生しており、乳幼児期の家庭における十分な安全対策が必要である。 | |
| 目 標 | 乳幼児の家庭内でのケガや事故の減少 | |
| 内容等 | 家庭内でのケガや事故防止に資するチラシ／ 啓発媒体の作成配布 | |
| | 【対 象】 | 乳幼児や未就学児を養育する保護者 |
| | 【人 材】 | 対策委員会・都留市・保育園・認定こども園 |
| 区 分 | 指 標【方向性】 | 測定方法 |
| (短期) 認識や知識の変化 | 家庭での防止対策を認識している家庭の割合 【認識している家庭の割合の 増加 】 | 対策委員会個別アンケート |
| (中期) 態度や行動の変化 | 家庭で安全対策をしている家庭の割合 【対策をしている家庭の割合の 増加 】 | 乳幼児健診問診票 |
| (長期) 状態や状況の変化 | 一般負傷による事故件数 【事故件数の 減少 】 | 救急搬送データ |



活動内容

■ 乳幼児の家庭内でのケガや事故防止のための啓発媒体の作成



- ・子どもの身長が計測できる仕組みのある啓発媒体
- ⇒ 1歳児の手が届く範囲の目安として「90cm」まで計測可能

※ 1度見て終わりにならないよう**実用性を意識**して作成

プログラム①の評価

| 年 | | 2021 (認証) | 2022 | 2023 | 2024 |
|------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| アウトプット (活動指標) | 啓発チラシの配布数 啓発媒体の配布数 | 赤ちゃん広場:8枚 7ヶ月健診:125枚 園児世帯:697枚 | 赤ちゃん広場:6枚 7ヶ月健診:157枚 | 赤ちゃん広場: ポスター掲示 7ヶ月検診:149枚 | 赤ちゃん広場: ポスター掲示 7ヶ月健診:137枚 |
| アウトカム (成果指標) | 意識・知識(短期) 家庭での防止対策を認識 している家庭の割合 | — | — | — | — |
| | 態度・行動(中期) 家庭で防止対策をしてい る家庭の割合 | している:55.6% していない:37.8% | している:62.9% していない:35.3% | している:64.1% していない:35.1% | している:52.7% していない:46.6% |
| | 状況(長期) 一般負傷による事故件数 | 6件(0~4歳) 2件(5~9歳) | 23件(0~4歳) 5件(5~9歳) | 7件(0~4歳) 3件(5~9歳) | 14件(0~4歳) 6件(5~9歳) |

アウトプット - 赤ちゃん広場や7ヶ月健診の場で対象者にチラシや媒体を配布することで確実に実施
 アウトカム(短期) - 元々、中期と同内容であったため、2025年から「認識している家庭の割合」に変更
 アウトカム(中期) - 乳幼児健診問診票の設問に設定することで、毎年度の動向を把握
 アウトカム(長期) - 救急搬送データの分析によって、毎年度の動向を把握

プログラム② 【独立】

学校での過ごし方の分析と児童生徒自身の安全に対する意識の向上

| | | |
|------------------|--|------------------------|
| 課 題 | 小中学生の学校生活中のケガ予防に資する対策を充実させる必要がある。 | |
| 目 標 | 小中学生の学校生活におけるけがの減少 | |
| 内容等 | 保健室来室記録データ分析結果データ等の児童生徒連絡協議会への提供／ 「ISS (International Safe School)」との連携 | |
| | 【対 象】 | 市内の小中学生 |
| | 【人 材】 | 対策委員会・都留市教育委員会・小学校・中学校 |
| 区 分 | 指 標【方向性】 | 測定方法 |
| (短期) 認識や知識の変化 | 校内における事故やけが防止に資する 周知活動【周知活動の増加／維持】 | 学校数 |
| (中期) 態度や行動の変化 | 取り組みを実施した学校の割合 【取り組みの増加／維持】 | 学校数 |
| (長期) 状態や状況の変化 | 校内における事故やけがの件数 【事故やけがの件数の減少】 | 保健室来室記録データ |

プログラム②の評価

| 年 | | 2021 (認証) | 2022 | 2023 | 2024 |
|------------------|--|------------------------|------------------------|------------------------|---------------------------|
| アウトプット (活動指標) | 活動の実施回数 (ISSとの連携回数) | — | — | 1回 (取組説明・ 意見交換) | 1回 (都留リーダー サミットに参加) |
| アウトカム (成果指標) | 意識・知識(短期) 校内におけるケガや事故 防止に資する周知活動 | 11校 | 11校 | 10校 | 10校 |
| | 態度・行動(中期) 取り組みを実施した学校 の割合 | 11校 | 11校 | 10校 | 10校 |
| | 状況(長期) 校内におけるケガや事故 の件数 | 小学校:3,036件 中学校:823件 | 小学校:3,024件 中学校:793件 | 小学校:2,904件 中学校:712件 | データ取得中 |

アウトプット - ISSとの連携回数として、2024年:意見交換の実施、2025年:都留リーダーサミットへの参加

アウトカム(短期) - 全ての小中学校で周知活動を実施

アウトカム(中期) - 全ての小中学校で取り組みを実施

アウトカム(長期) - 保健室来室記録データの分析によって、毎年度の動向を把握

活動内容

■ 「ISS (International Safe School)」との連携 (都留リーダーサミットへの参加)

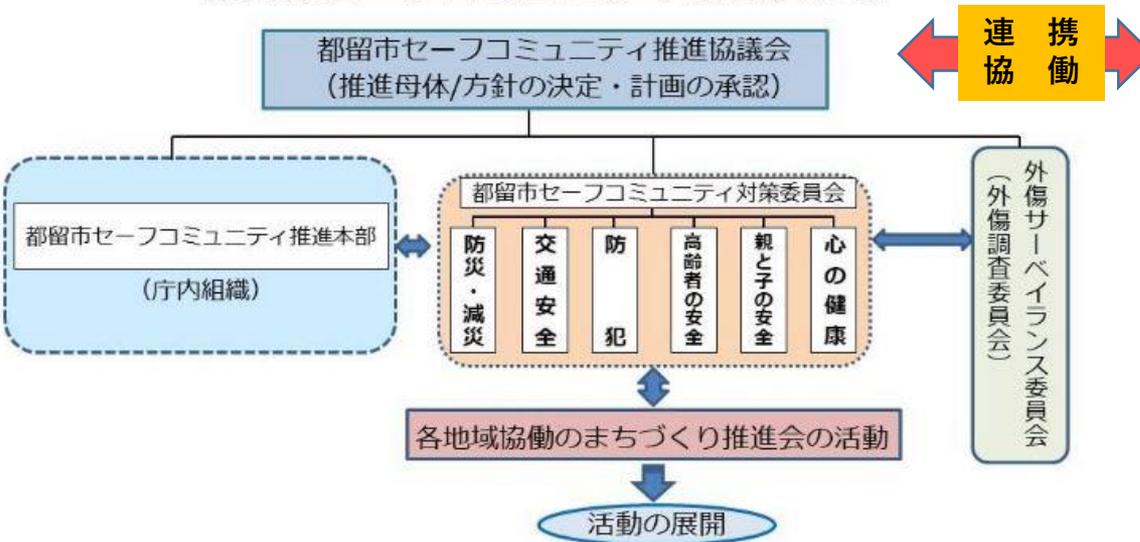
【 2024年 都留リーダーサミットの様子 】



※ 2025年3月26日に開催した対策委員会の中で今後の方向性
について協議

【今後の方向性まとめ】

都留市セーフコミュニティの推進体制



ISS (International Safe School)

都留市児童生徒連絡協議会



児童生徒主体の安全安心な学校づくりに向けた活動の開始に伴い、本対策委員会としてのプログラムから独立

「都留市セーフコミュニティ全体」として「ISS」と連携

プログラム③

子育て中の保護者が気軽に相談できる場の周知

| | | |
|------------------|--|-----------------------------|
| 課 題 | 育児不安を感じている親の割合が子どもの月齢が上がるにつれて上昇している。 | |
| 目 標 | 子育てのしにくさや不安が解消される。 | |
| 内容等 |  チラシの配布・子育てほっとステーションの設置 市内の各種イベント時にブース出展(SC活動/子育て支援PR) | |
| | 【対 象】 | 子育て中の保護者 |
| | 【人 材】 | 対策委員会・都留市・地域子育て支援センター |
| 区 分 | 指 標【方向性】 | 測定方法 |
| (短期) 認識や知識の変化 | 地域子育て支援センター利用者数 【利用者数の増加】 | 地域子育て支援センター(4ヶ所) からの報告件数 |
| (中期) 態度や行動の変化 | 子育て相談窓口利用件数 【相談件数の増加】 | 地域子育て支援センター(4ヶ所) からの報告件数 |
| (長期) 状態や状況の変化 | 困った時の解決策を知っている人の割合 【解決策を知っている人の割合の増加】 | 乳幼児健診問診票 |

活動内容

■ 「子育てほっとステーション」の設置（設置主体：都留市）

- ・2022年4月に子育てに関する総合相談窓口として、健康子育て課内に「子育てほっとステーション」を設置した。（ワンストップの相談対応を実施する体制を構築）



～  都留市 健康子育て課より 皆さまにお知らせ ～

いきいきプラザ都留 健康子育て課に
ワンストップ妊娠&子育て総合相談窓口

「**子育てほっとステーション**」を設置しました！！

妊娠から子育て全般に関することを、お気軽に相談ください

いきいきプラザ都留 健康子育て課
子育てほっとステーション

| | | |
|--|--|---|
| <p>子どもを預ける</p> <ul style="list-style-type: none">◆保育園や認定こども園の入園、保育料等に関する相談◆一時預かり保育事業◆子育て支援センター◆放課後児童クラブ◆ファミリー・サポート・センター◆病児保育、休日保育 など | <p>出産</p> <ul style="list-style-type: none">◆出産育児一時金に関する相談◆出生届、未熟児養育医療給付に関する相談◆小児慢性特定疾患治療研究事業に関する相談 など | <p>手当を受ける</p> <ul style="list-style-type: none">◆児童手当◆児童扶養手当◆子どもの医療費助成 など |
| <p>発達健康</p> <ul style="list-style-type: none">◆日頃の子育て相談◆子どもの発達に関する相談◆乳幼児健診◆予防接種に関すること◆親子の交流の場、子どもの遊び場情報について◆子どもの障害に関する相談 など | <p>妊娠</p> <ul style="list-style-type: none">◆母子手帳交付◆マタニティタクシー◆産後ケア事業◆妊婦相談、妊婦訪問◆マタニティクラス、パパママ教室 など | <p>ひとり親</p> <ul style="list-style-type: none">◆ひとり親にかかわる相談◆児童扶養手当、ひとり親家庭医療費助成、母子家庭等自立支援給付金 など |

都留市健康子育て課 子育てほっとステーション
いきいきプラザ都留内 ☎ 0554-46-5113

活動内容

■ イベントへのブース出展

【 射的／わなげ等 】



【 缶バッジ作成 】



【 アンケート調査 】



子育て中の保護者に対して、直接アプローチする絶好の機会となっている。

また、成果指標を図るためのアンケート調査の機会としても活用している。

活動内容

■ ブース出展時に委員会独自に作成したチラシを配布

まち・ひと・心・身体にも
安全で安心なまちづくり
都留市 セーフコミュニティ



■ セーフコミュニティとは？

- 「事故やケガは偶然の結果ではなく、原因を分析することで予防することができる」という理念の下、地域住民と行政等が協働して安全の向上に取り組んでいる地域のことを言い、WHO（世界保健機関）が推奨し、国際セーフコミュニティ認証センターが認証する**世界的な取り組み**です。

◇ 都留市が取り組む理由は？

これまで地域において取り組んできた、交通安全対策、防災活動、高齢者のための健康対策等の各種事業を科学的な手法を用いて分析し、地域、行政、警察、学校、家庭等の安全・安心に関わる様々な分野が、協働・連携することで、これまで以上に「地域の誰もがいつまでも健康で幸せに暮らせるまち」を創るためです！

◇ どんな効果があるの？

これまでの安全・安心に関する取り組みや対策に、データに基づく根拠ある取組みや連携・協働による取り組み、客観的評価を掛け合わせて行うもので、**地域コミュニティの再生、事故・ケガの減少、医療費等の軽減等**、市のイメージアップによって、**移住対策・観光面での効果が期待されます！**

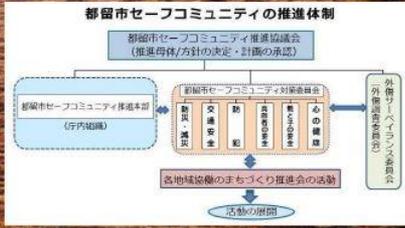


【国際認証を取得】

令和3年8月21日：国際認証の効力を発する合意書署名式

世界：421番目・国内：17番目

都留市セーフコミュニティの推進体制





都留市 《 令和7年度 》
【 子ども・子育て支援事業 】

子育ての喜びが実感できるまちづくり / つる de 子育て♪

1 地域子育て支援センター

○認定こども園などに入園前の親子が交流を持つ場所であり、無料で利用することができます。常駐する保育士などにより、子育て中の保護者が抱える育児に関する悩み相談に応じるほか、子育てに関する様々な情報の発信やあそびを提供しています。

※ 場所などの詳細は裏面を確認ください。

2 ファミリー・サポート・センター

○育児の援助を受けたい人（依頼会員）と育児の援助を行いたい人（提供会員）が会員になり、地域の中で子育てを支え合う有償ボランティア事業です。【 NPO法人 にこ研 】

利 用 料：1時間 500円～700円（利用時間帯で変動）
対象年齢：生後3ヶ月～小学校6年生まで
利用時間：6時～22時まで
実施場所：まちづくり交流センター（☎ 43-1330）

3 病児・病後児保育事業

○病気中や病後回復期の子どもを家庭で保育できないとき、看護師・保育士が常駐する専用施設でお預かりする事業です。【 武井クリニック 】

利 用 料：1日あたり1,000円（事前登録が必要です）
対象年齢：生後4ヶ月～小学校6年生まで
利用時間：8時30分～17時30分まで
実施場所：病児保育室なかよし（☎ 45-6847）

4 休日保育事業

○病気中や病後回復期でない子どもを、保護者の就労などの理由により、家庭で保育ができないときにお預かりする事業です。【 武井クリニック 】

利 用 料：1日あたり3,000円（事前登録が必要です）
対象年齢：1歳～小学校6年生まで
利用時間：8時30分～17時30分まで（土・日・祝のみ）
実施場所：病児保育室なかよし（☎ 45-6847）

5 一時預かり事業

○認定こども園などを利用していない子どもを持つ保護者が、冠婚葬祭、就労、病気、介護などで、一時的に家庭での保育が困難なときにお預かりする事業です。

実施場所：都留市地域子育て支援センター「はぐとつ」
開地保育園（☎ 43-3647）
長生保育園（☎ 45-0683）

New 入院時食事療養費の助成

○子どもの疾病の早期発見と早期治療を促進し、子育てに伴う保護者の経済的負担の軽減を図るため、**18歳までの子どもの医療費は窓口無料。**

■ 令和7年度から新たに
「入院時食事療養費」を助成対象に追加！
⇒ 償還対応となるので、医療機関で交付される食事療養費の金額が記載された領収書を持参いただき、窓口で申請が必要です。

■ いきいきプラザ都留 〒402-0051
健康子育て課（こども家庭センター） 都留市下谷2516-1

受付時間 8時30分～17時15分 / 電話番号 0554-46-5113

プログラム③の評価

| 年 | | 2021 (認証) | 2022 | 2023 | 2024 |
|------------------|----------------------------------|--------------|--------|---------|---------|
| アウトプット (活動指標) | 啓発チラシの配布数 | — | 1,085枚 | 1,109枚 | 1,002枚 |
| アウトカム (成果指標) | 意識・知識(短期) 地域子育て支援センター 利用者数 | 2,601人 | 2,911人 | 10,734人 | 12,476人 |
| | 態度・行動(中期) 子育て相談窓口利用件数 | 50件 | 149件 | 339件 | 365件 |
| | 状況(長期) 困った時の解決策を知って いる人の割合 | 77.6% | 83.8% | 83.8% | 88.2% |

アウトプット - 子育てほっとステーション等において対象者に確実に配布・説明を実施

アウトカム(短期) - 市内4ヶ所の地域子育て支援センターからの報告件数を集計して、毎年度の動向を把握

アウトカム(中期) - 市内4ヶ所の地域子育て支援センターからの報告件数を集計して、毎年度の動向を把握

アウトカム(長期) - 乳幼児健診問診票の設問に設定することで、毎年度の動向を把握

プログラム④

市民に対する虐待に係る正しい知識の周知

| | | |
|------------------|---|------------------------------|
| 課 題 | 子どもへの無意識の虐待が多いので、虐待に対する正しい知識と防止のための十分な対策が必要である。 | |
| 目 標 | 児童虐待（要保護・要支援児童）が減少する。 | |
| 内容等 | 啓発動画（YouTube）の作成・啓発物品（定規）の作成配布 | |
| | 【対 象】 | 子ども・保護者・地域住民 |
| | 【人 材】 | 対策委員会・都留市・児童相談所 |
| 区 分 | 指 標【方向性】 | 測定方法 |
| （短期） 認識や知識の変化 | 児童虐待に関する意識の向上 【子どもの権利を知っている子どもの 人数の増加】 | 啓発動画の閲覧回数 イベント時の個別アンケート調査 |
| （中期） 態度や行動の変化 | 児童虐待に係る相談・通告件数 【相談・通告件数の増加】 | 市虐待調査 |
| （長期） 状態や状況の変化 | 要保護・要支援児童の人数 【要保護・要支援児童数の減少】 | 市虐待調査 |



活動内容

■ 啓発動画 (YouTube) の作成



【第1弾 内容】

虐待と認識されにくい行為の理解促進
虐待の防止について



【第2弾 内容】

「心理的虐待」、「身体的虐待」、
「性的虐待」についての理解促進



活動内容

■ 啓発物品（定規）の作成

子どもに直接、「子どもの権利」及び「相談窓口」を広く周知・啓発するため、日常的に利用する文房具（定規）を委員会独自に作成。

【啓発チラシ】

いゆなんかい
1年生のみなさんへ

おうちや学校で、困っていることはないかな？

こまったことがあって先生やおうちのひとに相談できないときに、
このじょうぎに書いてある電話番号にれんらくすると、
お話を聞いてもらえます。

じょうぎは、ふてばこに入れて使ってね♪

都留市役所 健康子育て課
都留市セーフコミュニティ親と子の安全対策委員会

1. 困ったなあ...
2. こまったなあ...
3. がんばって、はなしてみよう!!



【オリジナル定規】

※ 11月の「虐待防止月間」に併せて、啓発チラシと一緒に配布

参考



■ 全国の児童相談所での虐待相談対応件数は、統計開始から33年連続増となった。山梨県での対応件数は1418件となり、過去3番目の多さであった。

■ 虐待通告から48時間以内に子どもの安全確認を行うルールがあり、児童相談所職員の業務負担は重く、離職率も高い状況である。

⇒ 「虐待に対する正しい知識」・「子どもの権利」・「相談窓口」の周知／啓発に注力する必要性あり。

プログラム④の評価

| 年 | | 2021 (認証) | 2022 | 2023 | 2024 |
|------------------|--------------------------------------|--------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| アウトプット (活動指標) | 啓発物品等の配布数 (定規の配布枚数) | — | — | 1,880枚 (市内小・中学生) | 171枚 (市内新1年生) |
| アウトカム (成果指標) | 意識・知識(短期) 児童虐待に関する意識の 向上 | 203回 | 424回 (第1弾:286回) (第2弾:138回) | 521回 (第1弾:312回) (第2弾:209回) | 564回 (第1弾:324回) (第2弾:240回) |
| | ①動画閲覧回数 ②「子どもの権利」を知っている 子どもの人数 | — | — | — | 83人/112人 |
| | 態度・行動(中期) 児童虐待に係る相談・ 通告件数 | 37件 | 29件 | 50件 | 38件 |
| | 状況(長期) 要保護・要支援児童の 人数 | 96人 | 102人 | 114人 | 113人 |

アウトプット — 委員会独自に作成した定規を全ての小中学生に配布・説明する取り組みを継続

アウトカム(短期) — 啓発動画の閲覧回数に加えて、子どもに対して個別アンケートを実施することで認知度を把握

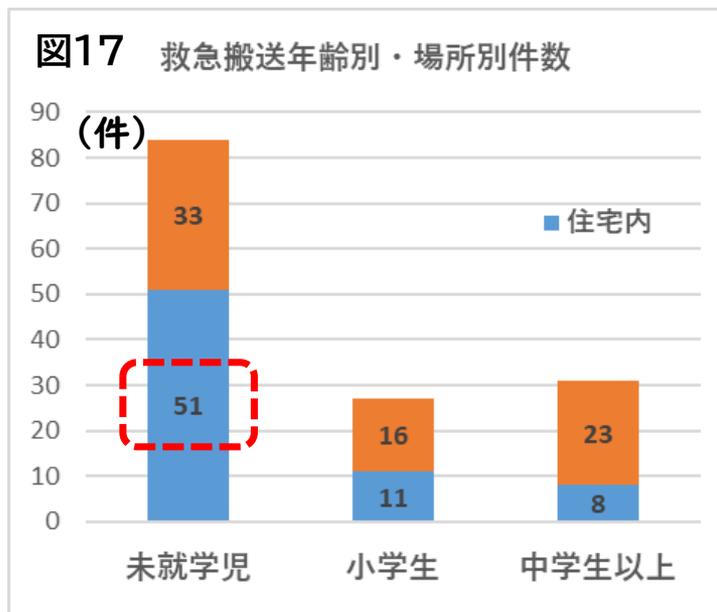
アウトカム(中期) — 市虐待調査の結果を集計して、毎年度の動向を把握

アウトカム(長期) — 市虐待調査の結果を集計して、毎年度の動向を把握

取り組みの成果

| 項目 | 2013~2018年 合計 | 2019~2023年 合計 | 成果 | 参照 |
|----------------------------------|---|--|-----------|----------------|
| 未就学児の住宅内 での負傷件数 | 51件 | 38件 | 負傷件数 減少 | P44 図17 図18 |
| 子育てのしにくさ を感じる親の割合 | (2017年) 3.4カ月:11.6% 1歳6カ月:23.9% 3歳:39.4% | (2023年) 3.4カ月:6.8% 1歳6カ月:12.8% 3歳:20.7% | 全ての年代で減少 | P45 図19 図20 |
| 子どもを感情的に 叱った・叩いたことが ある親の割合 | (2017年) しにくさあり:54% しにくさなし:18% | (2023年) しにくさあり:32.5% しにくさなし:15.7% | しにくさあり 減少 | P46 図21 図22 |
| 保護者が抱える 心理的な負担・不安 | (2018年) いずれもない:7.9% 心理的な負担・不安 20%前後 | (2024年) いずれもない:10.2% 心理的な負担・不安 20%前後 | 明確な増減なし | P47 図23 |

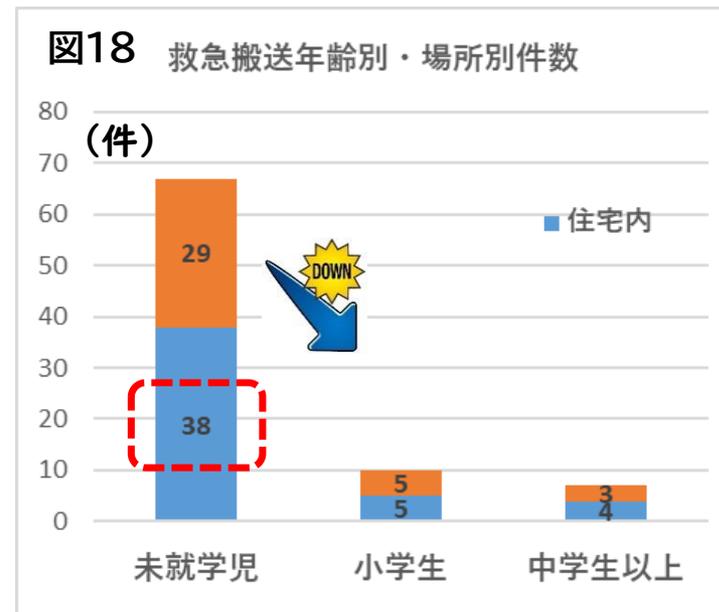
成果①：未就学児の住宅内での負傷件数



出典：2013-2017
一般負傷による救急搬送データ



未就学児の住宅内での
負傷件数は減少
(51 ⇒ 38)

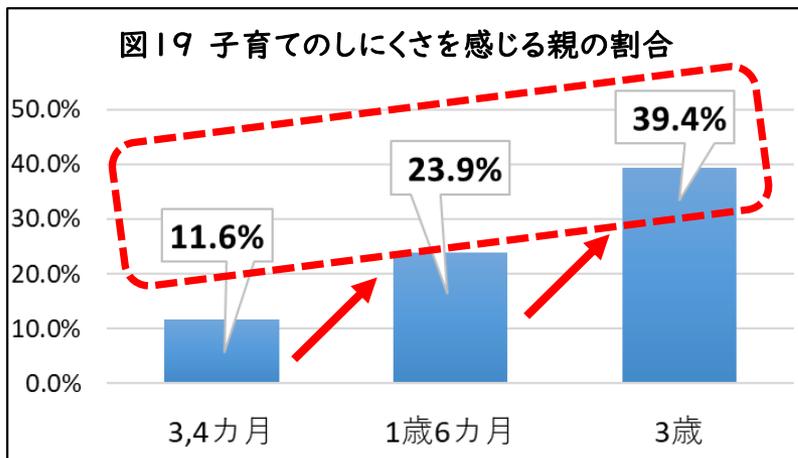


出典：2019-2023
一般負傷による救急搬送データ

【 定性評価 】

- ・7ヶ月健診の相談時に啓発チラシや啓発媒体を配布する中で、
「動くようになると色々な事故の可能性があるのでね」や
「家族にも見せてみんなで気を付けるようにします」といった
意識づけに繋がっている声が聞かれている。

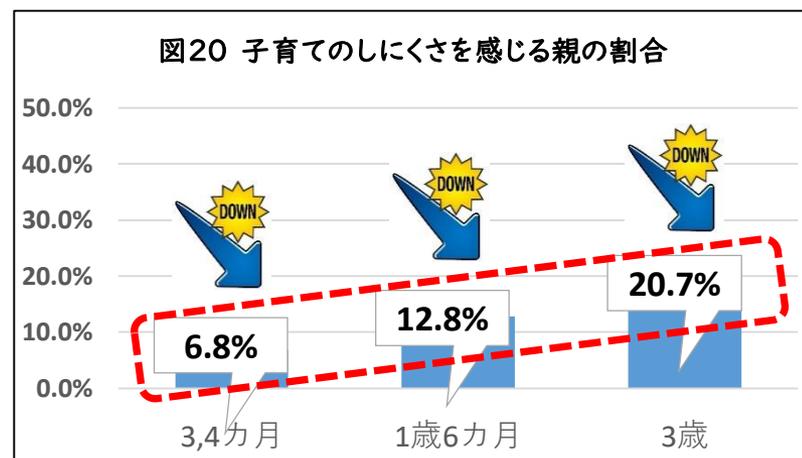
成果②：子育てのしにくさを感じる親の割合



出典：2017
乳幼児健康診査データ



割合は減少



出典：2023
乳幼児健康診査データ

【 定性評価 】

- ・2024年8月から、健康子育て課による「つながる」事業が開始され、相談の場の周知だけでなく、相談の場に行けるようにつなげる支援が開始された。

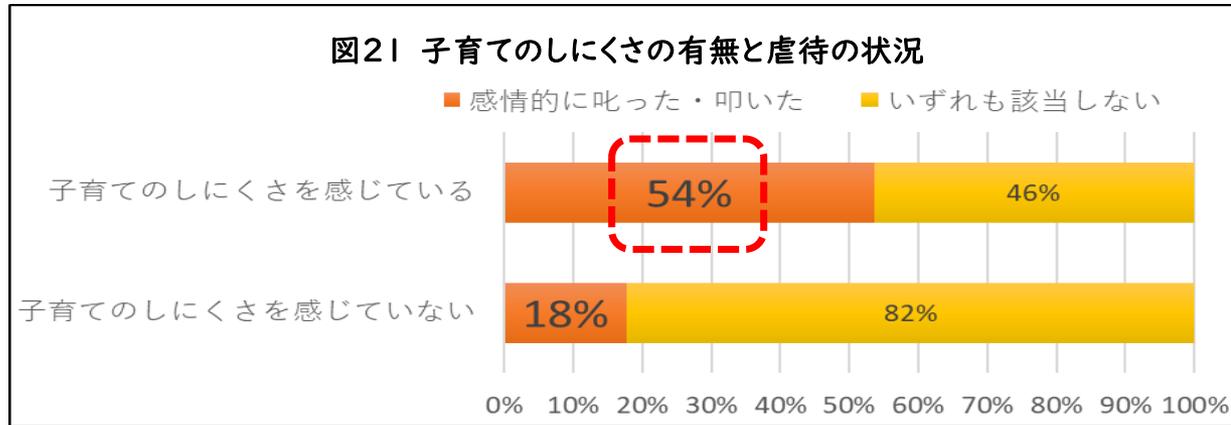
支援した保護者からは、

「自分では新しい場所に行きにくいからありがたい」

「相談できる場所が増えてよかった」

などの肯定的な意見が寄せられている。

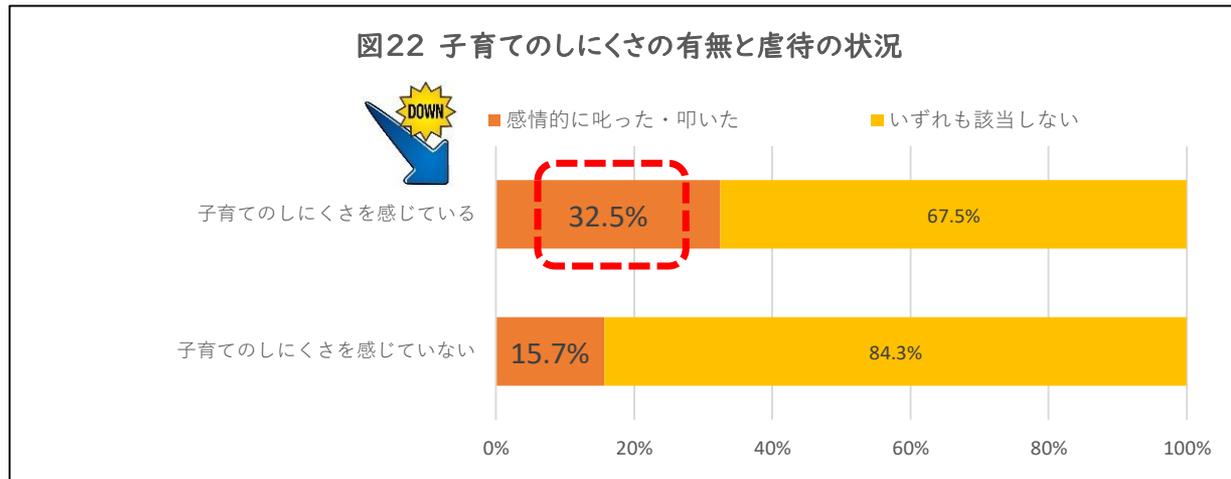
成果③：子どもを感情的に叱った・叩いたことがある親の割合



出典：2017
乳幼児健康診査データ



■ 子育てにストレスを感じている人ほど、虐待リスクが高い。



出典：2023
乳幼児健康診査データ

【 定性評価 】

- ・虐待の通告を受け、市虐待調査を取りまとめている健康子育て課によると、「虐待は殴る蹴る等の身体に与える体罰的なものだけだと思っていた」という声があり、心理的虐待やネグレクト等について周知を図り、理解を深めていく必要があるとのこと。

成果④：保護者が抱える心理的な負担・不安

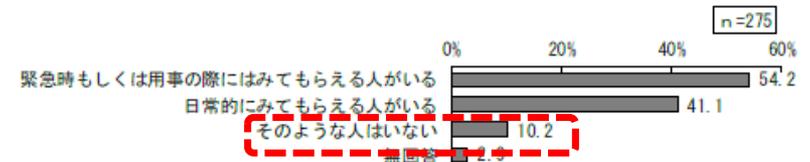
図23：子ども・子育てニーズ調査結果比較

出典：2024年
子ども・子育てニーズ調査

問10 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

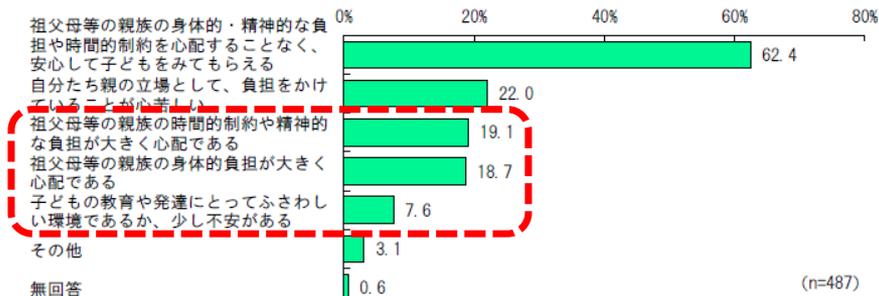


問19 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる人はいますか。
(当てはまるものすべてに○)

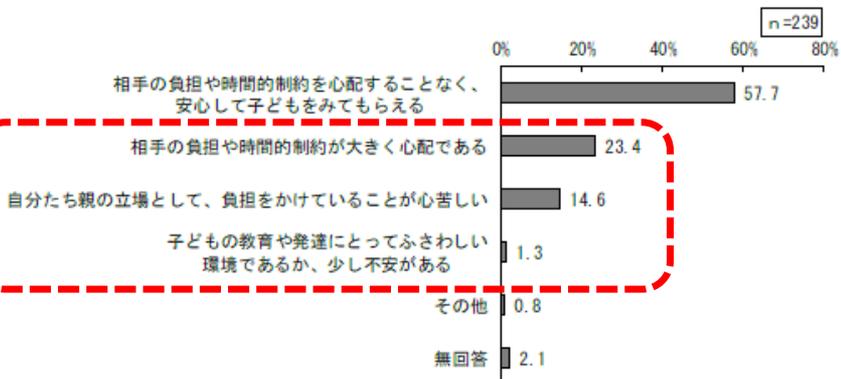


取組による
変化なし

問10-1 問10で「1」または「2」に○をつけた方にうかがいます。
祖父母等の親族に宛名のお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。



問19-1 その人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。
(特に当てはまるもの1つに○)



出典：2018年
子ども・子育てニーズ調査

【 定性評価 】

- ・ ニーズ調査の自由意見の中では、「子育て支援センターが多く、どこに行くか迷うくらい」、「他のお母さんとの交流の機会ができて助かる」、「遊ばせる場所が増えて良かった」という前向きな意見が多く寄せられた。

データの収集・分析、リスクアセスメント

2023年外傷サーベイランス委員会「安全診断」の結果とそれに対する対応

| 安全診断の結果 (外傷サーベイランス委員会の評価) | 対策委員会での対応 |
|--|---|
| 市の事業として進めている各種計画と対策委員会の活動を分離させるのではなく、一体的に考えて進めていってほしい。 | 計画策定時等に市民を対象としたアンケート調査を実施する際には、SCとの関連性を意識していく。 (子ども・子育て支援事業計画の策定時には実施) |
| 家庭で行っている安全対策の設問において、具体的な対策方法を示すことで、意識のある人は対応してくれる可能性が高いため、周知活動に活用してはどうか。 | より具体的な対策方法をわかりやすく提示する工夫を行うことで、家庭内での安全対策を講じる家庭の割合増加につなげていく。 |
| 「子ども」というキーワードでは、他の対策委員会と様々な部分で連携ができるため、活動の幅を広げていけるのではないかと。 | 「SC共通カレンダー」を活用して、各対策委員会の動向を把握することで、連携した取り組みを推進していく。 |

現在の課題

◆乳幼児の住宅内での負傷原因に変化が見られない。

⇒ 負傷件数自体は減少しており、一定の成果が見られるが、負傷原因は相変わらず、「転落」・「転倒」・「物への接触」等が多く、対策の更なる徹底が必要である。

◆子育てに不安や悩みを抱える保護者が一定数存在する。

⇒ 子育てと仕事の両立の難しさや地域とのつながりの希薄化等、子育てを取り巻く環境に大きな変化はなく、行政等による支援が必要な家庭も存在している。

◆児童虐待に係る相談・通告件数が増加している。

⇒ 児童虐待に係る正しい知識や相談先の啓発を進めるほど、児童虐待に係る理解が促進することは成果であるが、相談・通告件数も増加するため、児童虐待が増えていくような印象と捉えられてしまう懸念がある。

今後の取り組み

| 2021年 (認証) | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年 | 2026年 (再認証) |
|---|-------|-------|-------|-------|----------------|
| <p>プログラム①：乳幼児期の家庭内での事故やけが防止に資する保護者への啓発と環境整備の促進</p> <p>【継続】啓発チラシ・啓発媒体の作成配布</p> <p>【拡大】イベント時等のブース出展</p> | | | | | |
| <p>プログラム②：学校での過ごし方の分析と児童生徒自身の安全に対する意識の向上</p> <p>保健室来室記録データ分析結果資料の児童生徒連絡協議会への提供</p> <p>ISSの取り組み</p> <p>(必要に応じて)</p> <p>【検討】ISSと連携した取り組み</p> | | | | | |
| <p>プログラム③②：子育て中の保護者が気軽に相談できる場の周知</p> <p>【継続】啓発チラシの作成配布</p> <p>【拡大】イベント時等のブース出展</p> | | | | | |
| <p>プログラム名④③：市民に対する虐待に係る正しい知識の周知</p> <p>【継続】啓発チラシ・啓発物品の作成配布</p> <p>【検討】保育園／小学校等の巡回</p> | | | | | |



ご清聴
ありがとうございました。

都留市セーフコミュニティ
親と子の安全対策委員会
一同